

科研費支援イベント

科研費改革2018： 対応から先制へ

筑波大学
生命環境系・教授
学長特別補佐
URA研究支援室長・上席URA

馬場 忠



なぜ科研費が必要なのか？

さまざまな個人向けの競争的外部研究資金がある

- ・ JST関係（CREST、さきがけ・・・）
かなり限定された分野での公募
- ・ 省庁関係（AMED、NEDO、BRAIN・・・）
かなり限定された分野での公募

なぜ科研費？

もっとも公平ですべての研究分野に応募の機会がある
外部研究資金がないと研究活動ができない

個人的には

- ・ 研究室を維持して良い論文を書くため
数回不採択になると元の研究環境へ戻すのにかなりのエネルギーが必要（実質的に無理）
- ・ 学生と若手研究者の教育・人材育成のため
大学の使命は「研究ツール」を使った人材育成（教育）
➡ 目的を果たせなくなる



科研費の採択支援

あなたの科研費採択のために
多くの人が支援している

- ・ 大学本部
研究推進部外部資金課、UR A 研究戦略推進室 など
- ・ それぞれの部局
支援室事務職員、書類のレビュー担当教員 など

UR A 研究戦略推進室の目標

- ・ 大型研究種目の採択
特別推進や基盤S、新学術などの採択支援
- ・ 研究継続のための採択
全教員が少なくともひとつ以上の採択を！
- ・ つくば地域での連携
研究機関を超えた共同研究促進のための支援



次年度からの科研費種目

特別推進	新しい学術を切り開く独自性のある研究（1人または少人数） 3～7年間、～5億円/1課題
新学術領域	学術水準の向上と強化（多様な研究者グループ） 5年間、1000万～3億円/年度/グループ
基盤（S）	独創的・先駆的な研究（1人または少人数） 5年間、5000万～2億円/1課題
基盤（A）	独創的・先駆的な研究（1人または複数） 3～5年間、2000万～5000万円/1課題
基盤（B）	独創的・先駆的な研究（1人または複数） 3～5年間、500万～2000万円/1課題
基盤（C）	独創的・先駆的な研究（1人または複数） 3～5年間、500万円以下/1課題
若手（B）	ひとりの若手研究者（博士取得後8年未満） 2～4年間、500万円以下/1課題
挑戦的研究 （開拓）	飛躍的に発展する潜在性を有する研究（1人または複数） 3～6年間、500万円～2000万円以下/1課題
挑戦的研究 （萌芽）	探索的性質の強い、芽生え期の研究（1人または複数） 2～3年間、500万円以下



新しい科研費の審査基準

審査方式	総合審査（大区分・中区分） 基盤（S），基盤（A）， 挑戦的研究	二段階の書面審査（小区分） 基盤（B），基盤（C）， 若手研究
審査員数	6～8名	4名（基盤C、若手） もしくは 6名（基盤B）
方法	同一審査員による書面審査 + 合議審査	同一審査員による二段階の 書面審査 採択課題は機械的に決定
書面審査の 評点	S（10%），A（10%） B（10%），C（70%）	4（10%），3（20%） 2（40%），1（30%）
審査件数	～60件程度 （同一区分の応募課題数が多い場合は機械的に分割し、複数の審査委員会により審査）	～120件程度

対応から先制へ

1. 細目表の見直しと大括り化

- ・細目の半数以上が統合や分割されたため審査員や競争相手が多彩に
→ 自分の申請書が勝てる区分はどこか？

2. 審査方式の再構築

- ・二段階書面審査であれ、総合審査であれ、同一審査員が審査
→ ファーストインプレッション（第一印象）がさらに重要？

3. 種目別の位置づけの明確化

- ・種目別に優先事項（採択率、充足率）が明確化
→ 応募する種目の位置づけを意識した申請書作成が必要？

4. 新しい研究計画調書の様式

- ・核心をなす学術的「問い」、目的及び独自性や創造性、着想の経緯、準備状況と実行可能性などの明確な主張
→ 自分の研究の普遍的な価値は何？客観性がさらに必要？

変更内容への対応のために早期からの取組みを

研究費を連続させる

- 対策方法 1 : 科研費の枠組みを最大限活用する
 - 補助事業期間延長承認申請（基金化種目）や繰越申請（補助金種目）の活用
 - 最終年度前年度応募の活用
 - ほかの研究課題への研究分担者としての参画
 - 規則内での重複応募
- 対策方法 2 : 学内の支援制度を活用する
 - プレ戦略イニシアティブ
 - 研究基盤支援プログラム
 - 産学連携の支援プログラム
 - 社会貢献プロジェクト
- 対策方法 3 : 科研費以外の研究資金を活用する
 - 他府庁の競争的・公募型資金
 - 民間財団助成
 - 賞 ……など

審査員の立場から感じること

高い評価をあげられない研究課題

1. ご自分の研究しか見えていない
 - ・ 研究の広がりや欠けており、当該分野の研究者しか判断できない
 - ・ 読んでいて息が詰まる（審査員は疲れている）
2. 総花的で目的が不明確
 - ・ 明確な目的がないところに成果はない
3. 教科書的な記載になっている
 - ・ ご自分がどこにいるのかが不鮮明
4. 得られるデータや結論を自分で決めすぎている
 - ・ ほとんどの研究は思い通りに進まない
5. 従来からの方法しか使用せず決められた範囲のなかで研究している
 - ・ 新しい結果が出てくるのか？
6. 研究業績が少ない
 - ・ 研究費配分をしても大丈夫？
7. 記載欄に空白が目立つ
 - ・ 良く練れていない印象や真剣さに欠ける
8. 余計なことを記載している
 - ・ 余計な記載は逆効果になる時がある
9. そのほか

どうしたら採択されるの？

個人的に思うこと

1. 研究の質が重要でテクニックは次
 - ・テクニックにこだわり本質を忘れていない
2. 研究論文と同じ
 - ・早めを書いて他人のレビューも参考にしながら修正を繰り返す
3. 最高評点を目指さない
 - ・評点3やAで構わない！ただし、評点2以下やB以下は取らない
4. 科研費はくじ引きではない
 - ・不採択の際に何を考え実行するかで次が決まる
5. 研究業績の重要性
 - ・実績のない研究者に研究費配分はできない
6. 相手（評価者）を知る
 - ・科研費審査員（小委員会委員）は公表されている
7. 申請する研究分野・分科・細目を良く考える
 - ・近くにいる研究仲間が同じところへ申請するとマイナスが多い
8. ヒアリング課題はURAが対応してくれる
 - ・遠慮なくリハーサルを申し出る

URAによる科研費獲得支援

1. 科研費支援カレンダー

本部・各系の取り組みを見える化 — 全学で情報共有

2. 若手・外国人対象科研費応募

サポートデスク（予定）

Support Desk for KAKENHI application
in English (Coming soon)

3. 若手対象応募書類改善支援（予定）

4. 外国人向け科研費セミナー(8/4)、 etc.企画

5. 筑波大学版 科研費応募書類 書き方の手引き

6. 科研費改革2018対策集

<http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/>



筑波大学研究ポータル
COTRE (コトリ)



科研費を獲りたい
Let's Get KAKENHI

研究支援情報や研究資金情報

筑波大学研究情報ポータル COTRE(コトリ)
Community of Tsukuba Researchers
<http://ura.sec.tsukuba.ac.jp/>



※COTRE画面は平成28年6月末掲載内容です。

筑波大学研究資金情報サイト RISS(リス)
Research Information System for Strategy
<http://www.research-fund.sec.tsukuba.ac.jp/>



- 研究に関する学内手続き、学内限定Webツール類等
- 科研費、その他外部研究資金(CREST・さががけ、RISTEX等)の申請支援情報、省庁概算要求の概要
- 競争的研究資金申請のためのURAのサポート情報
- 国・政府系、助成団体等の公募情報を一本化。学内締切、学内整理番号も掲載した学内利用限定ツール。
- 締切月、分野、目的、キーワードで絞り込み可。
- 毎日更新。カスタマイズできるメルマガ機能も有り。



科研費支援イベント

科研費改革2018： 対応から先制へ

筑波大学
生命環境系・教授
学長特別補佐
URA研究支援室長・上席URA

馬場 忠

